

手話って
どんな言語？



LibraryNAVI

『手話を学ぶ人のために』 (本名信行著 全日本ろうあ連盟 2017)

みなさんは手話についてどんなことを知っていますか？例えば、よく勘違いされがちですが、手話は世界共通ではありません。音声言語に日本語や英語、ドイツ語、フランス語などその国独自のものがあるのと同じように、手話にもその国独自の手話があり、さらには方言も存在します。

本書では「手話」という言語に対して、言語学や社会言語学の観点からわかりやすく解説がなされています。手話を理解する第一歩として、これから学ぼうとする人にぜひ読んでいただきたい一冊です。

手話を知る

『手話通訳者になろう』 (木村晴美〔ほか〕著 白水社 2019)

手話通訳者を見たことがありますか？

テレビのニュースや講演会で、話された内容を瞬時に手話に訳している姿を見かけた方も多いのではないのでしょうか。手話通訳が必要となる場面は多岐にわたり、教育現場、医療現場、裁判など司法の場、スポーツや、舞台鑑賞の場でも、通訳者は活躍しています。

手話通訳者はろう者のためだけにいるわけではありません。聞こえない人と聞こえる人、通訳者の力を借りなくては、コミュニケーションが成立しない双方をつなぐためにいるのです。

本書は手話という言語が持つ特性の解説から始まり、手話通訳者の役割と学び方、その働き方を紹介、更に実際に手話通訳者として働く方々へのインタビューを通し、手話通訳の魅力を伝えます。

手話を仕事にする

興味が
わいたら

このブックリストで
ご紹介した本は、全
て埼玉県立図書館で
所蔵しています。
気になるものが見つ
かりましたら、お気
軽にお問い合わせく
ださい。



コバトン・さいたまっち

埼玉県立熊谷図書館
熊谷市箱田 5-6-1
048-523-6291

2022.10

歴史を学ぶ

『手話の歴史』（上・下） （ハーラン・レイン著 築地書館 2018）

本書は2部構成となっています。第1部は、フランスを中心に欧州で普及していった手話をつかったろう教育の歴史やトーマス・ギャローデッドらとともに奮闘したアメリカ初のろう学校設立の過程が、ローラン・クレールの回顧という形で描写されています。

第2部は、クレールの死後から1900年代頃まで、手話をつかったろう教育がどのような変遷を辿ったのか、電話機の発明で有名なアレクサンダー・グラハム・ベルらが推進した口話法によるろう教育との軋轢の歴史が、著者であるハーラン・レインの言葉によって記述されています。

現代ではテレビ番組などで時折みられることもある手話ですが、ここに至るまでには様々な障壁と挫折の歴史がありました。これまで手話という言葉が歩んできた長い道程を、本書を通してぜひ学んでみてください。

新しい言葉



『新しい手話』（年刊） （全日本ろうあ連盟編 全日本ろうあ連盟）

「コロナウイルス」「クラスター」「緊急事態宣言」2020年より感染症が流行し始めてからというもの、テレビやラジオをつければ、毎日のように感染症にまつわる単語が飛び交っています。言葉とは情勢に合わせて日々新しいものが誕生しますが、これは音声言語に限った話ではありません。きこえる、きこえないに左右されずに平等に必要な情報を受け取ることができるよう、手話についても日々必要な単語の研究・調査が行われています。

本書には、社会福祉法人全国手話研修センター日本手話研究所「標準手話確定普及研究部」より提案された新しい手話が掲載されており、毎年刊行されています。手話知識のアップデートにぜひご活用ください。

はじめに

平成28年4月1日、埼玉県では手話言語条例が制定されました。本条例の制定をもって、埼玉県では「手話は言語であるとの認識に基づき、ろう者とうろう者以外の人が手話によって心を通わせお互いを尊重し共生できる社会の実現*」を目指してきました。

*埼玉県庁公式ホームページ「埼玉県手話言語条例」(<https://www.pref.saitama.lg.jp/a0604/kyoseisyakai/syuwajorei.html> 埼玉県福祉部障害者福祉推進課)より。

このブックリストでは、「手話」というもうひとつの言語について、学び、理解を深めるのに役立つ資料をご紹介します。

